

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 實行委員会



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。「進め！電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。執筆活動の他、京都造形芸術大学副学長、地域・企業のアドバイザー、下鴨茶寮主人などを務める。「くまモン」の生みの親でもある。

1月24日、プレゼンテーションにて



2016年、プロジェクトは
のスーパー・バイザーに、放
送作家として多くのヒット
を手がけ、くまモンの生み
の親でもある小山薫堂氏を
迎え、生駒芳子氏(ファッ
ション・ジャーナリスト、
アート・プロデューサー)、
下川一哉氏(意匠研究所)
らをサポートメンバーや発
足。以来、全国の若き匠の挑
戦が刻まれたプロダクトは
ふるさと納税の返礼品への
指定やロックフェラー家主
催のチャリティイベントへ
の出品、上海での国際的な
展示会への出品など、目覚
ましい活躍を見せている。
3年目となった今回は、
全国47都道府県から計50名
の若き匠が選出。昨年夏、レ
クサスギャラリー高輪で行
われたキッチンオフ・セッ
ションを皮切りに、サポート
のアイデアを磨き、プロダク
クトの制作に取り組んだ。

レクサスが日本全国の「匠」のモノづくりを応援



プレゼンする藤戸さん

The image shows a highly ornate, rectangular gold object, likely a book cover or a decorative panel. The object is intricately embossed with swirling, organic patterns in a dark, possibly black or dark brown, material. A small, round, light blue stone is set into the center of one of the swirling motifs. The object is displayed on a clear, circular stand, and a small gold object is visible at the bottom edge of the stand.

アイヌ模様が施されたスマートケース



工芸品が並ぶ「熊の家」店



アドバイスを受ける藤戸さん

A portrait of a young man with dark hair and a beard, wearing a white t-shirt. He is smiling and holding a paintbrush in his right hand.

藤戸 康平
北海道／木彫り作家・
プロダクトデザイナー

1978年11月6日、釧路市阿寒町に生まれる。阿寒湖温泉の民芸品店、熊の家藤戸にて勤務。その後、札幌市や釧路市等からの依頼で、北海道産木材を使用したプロダクトデザインを担当。2017年には、イタリアでの先住民族フェスティバルに招待され、アイヌ民族代表としてイクバスイ（儀礼具）を制作し収蔵。国立歴史民俗学博物館、国立民族博物館には、「iPhone case」「山辺」などを常設展示。



「itaシリーズ」(左)と「FUJITOシリーズ」(右)

木と生きるアイヌ工芸家が挑む
前例のない仕掛けの「木製」サン

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(社説 : ノクサス)は、日本全国の地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりを担う「匠」を応援する。

アイヌ文様を
日常生活に
根付かせたい



エリア・コンサルティングにて

“サングラス

藤戸 康平



「ロタクトー」2シリーズの6作品。「ita(イタ)シリーズ」の「イタ」とはアイヌ語で「お盆のこと」を意味し、お盆の文様を真鍮のレンズ部分に刻み込んだ。匠自身のアイデンティティであるアイヌを感じられる。「FUJITOシリーズ」は、木製だとアピールせず、使っている人だけがニヤニヤすればいい。純粹に美しいフレームだなと思われるものにした。いずれも「こだわり」のヒンジ部分は納得のいくものに仕上がった。木のしなりによる軽やかな開閉動作が心地いい。また、レンズの着脱にどうしても必要な1ミリの切り込

いては、当初から下川氏の評議會が高く、方向性は決まっていました。そんな中、11月のエリア・コンサルティングで下川氏からシリーズを二つ作ろうと提案された。それまでは、一つのフレームデザインに全てを注ぎ込もうとしていたが、コンセプトモデルと実用モデルに分けて考えることで頭の中を切り替えられたという。

「全国の匠から受けた影響は
大きく、とめどなくアイデアが
湧き出でてきた。ゆくゆくは『シ
ルモ・パリ国際メガネ見本市』
に出品し、世界にアピールした
い」と藤戸さんは笑顔で語って
くれた。日常で使うモノにこそ
ワクワクを。アイヌの伝統を
受け継ぎ、高い芸術性を生み出
す藤戸さんの作品は、今後もま
すます注目されるだろう。